

## 平成 27 年度実施施策に係る事前分析表

(文部科学省 27-7-1)

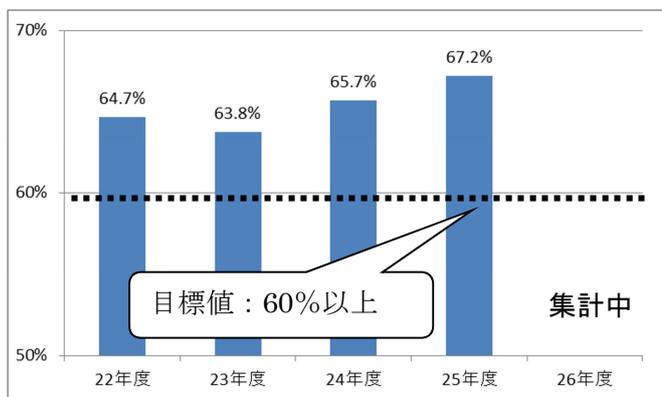
施策名	科学技術関係人材の育成及び科学技術に関する国民意識の醸成
施策の概要	天然資源に乏しい我が国にとって、科学技術と人材こそが唯一の資源である。未来を創る若手研究者等の支援の強化を図るため、自立的な研究環境の整備、若手研究者等が能力を發揮できる環境整備を支援するとともに、理数分野において優れた素質を持つ児童生徒を発掘して、その能力を伸ばすための取組を推進する。また、科学技術の社会的信頼を得るために、広く国民を対象として、科学技術に触れ、体験・学習できる機会の拡充を図る。

達成目標 1	1：次世代を担う科学技術関係人材の育成のため、子供が科学技術に親しみ学ぶことができる環境の充実を図る。 2：理数に興味関心の高い子供の能力を伸長することができる効果的な環境を提供する。 3：科学技術に関する基礎的な知識・能力の向上に資するため、国民が科学技術に触れる機会を増やす。						
達成目標 1 の設定根拠	第 4 期科学技術基本計画において、「次世代を担う才能豊かな子供達を継続的、体系的に育成していく」ことや「国民の科学リテラシーの向上を図る」ことがうたわれていることから、それらに資する上記取組を達成目標に設定した。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	22 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
	65%	65%	64%	66%	67%	調査中	60%以上
①SSH 出身の理系学部専攻の卒業生が「SSH 参加が現在の専攻分野選択に影響した」と回答した割合	年度ごとの目標値	-					/
	目標値の設定根拠	○ 第 2 期教育振興基本計画 14-2 理数系人材の養成 「スーパーサイエンスハイスクールの取組を充実させる」 ○ 第 4 期科学技術基本計画 IV. 3. (3) 次世代を担う人材の育成 「国は、次世代を担う科学技術関係人材の育成を目指すスーパーサイエンスハイスクール (SSH) への支援を一層充実するとともに、その成果を広く他の学校に普及するための取組を進める」などとされており、スーパーサイエンスハイスクールを通じて優れた理数系人材が輩出されることが求められることから、スーパーサイエンスハイスクールが当該目標に資する取組となっているかを図るため左記指標を設定し、基準年となる平成 22 年の水準を維持することを目標値とした。					
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	23 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
	257 人	実績なし	257 人	367 人	334 人	443 人	対前年度比増
②サイエンス・インカレに応募する学生数 (人)	年度ごとの目標値	-					/
	目標値の設定根拠	○ 第 2 期教育振興基本計画 14-2 理数系人材の養成 「…サイエンス・インカレ等の参加者数を増加させる」 ○ 第 4 期科学技術基本計画 IV. 3. (3) 次世代を担う人材の育成 「国は…『サイエンス・インカレ』の実施など、科学技術に対する関心を高める取組を強化する」などとされており、サイエンス・インカレの参加者数を増やすことが理数に興味関心の高い学生の能力を伸長することができる効果的な環境を多くの学生に提供することに資すると考えられることから、事業開始年度の平成 23 年度を基準とし、毎年順調に増やしていくことを目指し、平成 27 年度に 400 人以上の学生から応募を受けることを目標値とした。					

成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	22年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
③科学技術週間のサイトへのアクセス数の推移(人)	571,231	571,234	583,248	389,283	756,842	703,442	直近3か年のアクセス数の平均
	年度ごとの目標値	—			514,588	576,458	
	目標値の設定根拠	○ 各種の科学技術週間に関する情報を一元化して広報することにより、効率的に科学技術の理解増進を図ることを目的として、科学技術週間のHPを公開している。本HPのサイトへのアクセス数を科学技術に触れた国民の規模を図る指標として設定し、毎年アクセス数が増えることを目標値とすることとした。					
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	一年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
④全国学力・学習状況調査の結果 前年度に理科室で観察や実験をする授業を1クラス当たり「週1回以上行った」と回答した学校の割合(%)	—	実績なし		小:56.1% 中:55.5%	実績なし		対前回比増
	年度ごとの目標値	—					
	目標値の設定根拠	○ 現行の学習指導要領の理科では、科学的な見方や考え方を育成するため、観察・実験を重視していることから、理科の授業において観察や実験の機会が増加しているかを評価するため、全国学力・学習状況調査の同項目の調査結果を指標として設定し、前回調査から割合が増加することを目標値とすることとした。					

施策・指標に関するグラフ・図等

成果指標①SSH出身の理系学部専攻の卒業生が「SSH参加が現在の専攻分野選択に影響した」と回答した割合(%)



出典: SSH意識調査報告書に基づき文部科学省で作成

達成手段 (事業)		
名称 (開始年度)	平成27年度予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号
科学技術に関する人材の養成・活躍促進及び理解増進 (平成23年度)	4,570	167
スーパーサイエンスハイスクール ※会議の開催等に係る経費 (平成14年度)	3.1	170
理数教育充実のための総合的な支援 (昭和29年度)	2,364	171

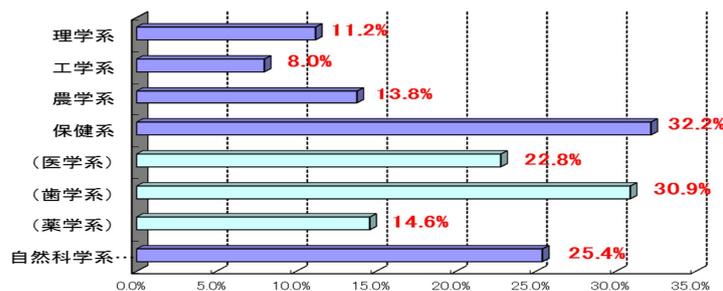
関連する独立行政法人の事業		
名称 (開始年度)	平成 27 年度予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号
独立行政法人科学技術振興機構運営費 交付金に必要な経費 (平成 15 年度)	100,553	173
平成 26 年度評価書 からの変更点	-	

達成目標 2	若手研究者や女性研究者、研究支援人材など多様な科学技術人材が活躍できる環境が整備される。							
達成目標 2 の 設定根拠	第 4 期科学技術基本計画において、テニュアトラック制の導入推進により研究者のキャリアパスの整備を図ることや、人材の流動性を高めること、女性研究者や研究支援人材の活躍促進を図ることがうたわれていることから、それらに資する上記取組を達成目標にした。							
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	
	26 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	34 年度	
①コンソーシアム内 で雇用した研究者 のうち常勤で任期 なしの研究職に就 いた研究者の割合 (※「科学技術人材育成 のコンソーシアムの 構築」事業実施機関、 最終年度のみ評価)	-	実績なし					-	対前年度比 増
	年度ごとの 目標値	-						
	目標値の 設定根拠	○ 科学技術イノベーション総合戦略 2014 第 3 章 3. ①多様で柔軟な発想・経験を生かす機会の拡大、＜主な関連施策＞ 「・公正・透明な評価制度に基づく若手研究者の安定的な雇用と流動性を確保する仕組みの拡大」とされていることから、コンソーシアム内で雇用された研究者が、事業による支援終了後に常勤任期なしの研究職に就き、安定的な雇用を得ることが目標達成に資する成果と考えられるため、左記指標を設定し、毎年度その割合が改善されていくことを目標値とすることとした。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	
	26 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	
③PBL を用いたイノ ベーション教育・起 業家教育を受講し た大学院生・若手研 究者の人数	-	実績なし					調査中	対前年度比 増
	年度ごとの 目標値	-						
	目標値の 設定根拠	○ 理工系人材育成戦略 【戦略の方向性 2】子供たちに体感を、若手・女性・社会人に飛躍を 重点 6. 学生・若手研究者のベンチャーマインドの育成 「ベンチャーマインドや事業化志向を身に付ける大学の人材育成プログラムの開発・実施を促進、大学発ベンチャー業界等に飛び込む人材や新規事業に挑戦できる人材を育成」とされていることから、大学における人材育成プログラムの開発・実施状況を図るため、左記指標を設定し、毎年度その人数が着実に増えることを目標値とすることとした。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	
	22 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	
④自然科学系におけ る若手新規採用教 員に占めるテニュ アトラック教員の	11.5%	11.5%	17.1%	18.9%	20.3%	22.6%	30%以上	
	年度ごとの 目標値	-						

割合 (※「テニュアトラック普及・定着事業」実施機関)	目標値の設定根拠	○ 第4期科学技術基本計画 IV. 3. (2) 独創的で優れた研究者の養成 ②研究者のキャリアパスの整備 「国は、テニュアトラック制の普及、定着を進める大学への支援を充実する。これにより、各大学が、その目的や特性に応じて、テニュアトラック制の導入を進めることにより、テニュアトラック制の教員の割合を全大学の自然科学系の若手新規採用教員総数の3割相当とすることを旨とする。」					
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
⑤大学の自然科学系における採用教員に占める女性割合	24.2%	調査せず	24.2%	25.4%	調査中	調査予定	30%以上
	年度ごとの目標値	—					
	目標値の設定根拠	○ 第4期科学技術基本計画 IV. 3. (2) 独創的で優れた研究者の養成 ③女性研究者の活躍促進 「国は、現在の博士課程(後期)の女性比率も考慮した上で、自然科学系全体で25%という第3期科学技術基本計画における女性研究者の採用割合に関する数値目標を早期に達成するとともに、更に30%まで高めることを目指し、関連する取組を促進する。」					
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	一年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
⑥大学等におけるリサーチ・アドミニストレーター組織の整備状況	—	実績なし	50機関	58機関	69機関	調査中	対前年度比増
	年度ごとの目標値	—					
	目標値の設定根拠	○ 科学技術イノベーション総合戦略2014 第3章3. (2) イノベーションシステムを駆動する～分野や組織の枠を超えた共創環境の実現～ 「研究マネジメントや研究支援に係る人材を国全体で継続的かつ安定的に育成・確保」とされており、着実にURA組織を整備する大学が増加することが、目標達成に資する成果と考えられることから、左記指標を設定し、毎年度着実にURA組織を整備する機関数が増加することを目標値とすることとした。					
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	22年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
①技術士登録者数	71,797人	71,797人	74,696人	77,394人	80,211人	82,939人	対前年度比増
	年度ごとの目標値	—					
	目標値の設定根拠	○ 技術士の水準を維持するとともに、我が国の技術力基盤の維持・向上のためには、技術士資格を有する者を着実に確保することが必要であり、その目標達成に資する成果として、左記指標を設定し、これまでの各年度末の技術士登録者数(実績値)を踏まえ、平成27年度(目標年)に登録者数が88,000人に達することを目標値とすることとした。					

施策・指標に関するグラフ・図等

成果指標②大学の自然科学系における女性研究者の採用割合 (出典：平成24年度 文部科学省調べ)



達成手段 (事業)		
名 称 (開始年度)	平成 27 年度予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号
科学技術に関する人材の養成・活躍促進及び理解増進（うちテニュアトラック普及・定着事業） (平成 23 年度)	2,084	169
科学技術分野の文部科学大臣表彰 (昭和 34 年度)	24.7	172
関連する独立行政法人の事業		
名 称 (開始年度)	平成 27 年度予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号
独立行政法人科学技術振興機構運営費 交付金に必要な経費 (平成 15 年度)	100,553	173
独立行政法人日本学術振興会運営費交 付金に必要な経費 (平成 15 年度)	27,238.8	176
平成 26 年度評価書 からの変更点	○成果指標⑥「大学等におけるリサーチ・アドミニストレーター組織の整備状況」においては、従前、調査対象を「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業において支援している機関としていたが、今年度評価書から、全国のリサーチ・アドミニストレーター組織を整備する機関に変更した。	

施策の予算額・執行額

(※政策評価調書に記載する予算額)

		25年度	26年度	27年度	28年度要求額
<p>予算の状況</p> <p>【千円】</p> <p>上段：単独施策に係る予算</p> <p>下段：複数施策に係る予算</p>	当初予算	13,723,001 ほか復興庁一括 計上分 0	11,277,405 ほか復興庁一括 計上分 0	9,045,806 ほか復興庁一括 計上分 0	10,234,393 ほか復興庁一括 計上分 0
		<152,218,701> ほか復興庁一括計上 分<3,353,753>	<147,945,715> ほか復興庁一括計上 分<2,298,767>	<127,791,874> ほか復興庁一括 計上分<486,897>	<147,148,295> ほか復興庁一括 計上分<0>
	補正予算	0 ほか復興庁一括 計上分 0	517,444 ほか復興庁一括 計上分 0	0 ほか復興庁一括 計上分 0	
		<81,905> ほか復興庁一括 計上分<0>	<485,646> ほか復興庁一括 計上分<0>	<0> ほか復興庁一括 計上分<0>	
	繰越し等	10,086,091 ほか復興庁一括 計上分 0	△517,475 ほか復興庁一括 計上分 0		
<△81,905> ほか復興庁一括 計上分<0>		<△403,741> ほか復興庁一括 計上分<0>			
合計	23,809,092 ほか復興庁一括 計上分 0	11,277,374 ほか復興庁一括 計上分 0			
	<152,218,701> ほか復興庁一括計上 分<3,353,753>	<148,027,620> ほか復興庁一括計上 分<2,298,767>			
執行額	15,741,719 ほか復興庁一括 計上分 0	10,634,457 ほか復興庁一括 計上分 0			
	<152,197,039> ほか復興庁一括計上 分<3,353,753>	<148,026,819> ほか復興庁一括計上 分<2,298,767>			

施策に関する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの）

名称	年月日	関係部分抜粋
----	-----	--------

<p>第4期科学技術基本計画</p>	<p>平成 23 年 8 月 19 日</p>	<p>IV. 3. (2) 独創的で優れた研究者の養成      ②研究者のキャリアパスの整備 (P.35) (7-1-2)      国は、テニユアトラック制の普及、定着を進める大学への支援を充実する。これにより、各大学が、その目的や特性に応じて、テニユアトラック制の導入を進めることにより、テニユアトラック制の教員の割合を全大学の自然科学系の若手新規採用教員総数の3割相当とすることを目指す。      ③女性研究者の活躍促進 (P.36) (7-1-2)      国は、現在の博士課程(後期)の女性比率も考慮した上で、自然科学系全体で25%という第3期科学技術基本計画における女性研究者の採用割合に関する数値目標を早期に達成するとともに、更に30%まで高めることを目指し、関連する取組を促進する。      IV. 3. (3) 次代を担う人材の育成 (P.36) (7-1-1)      国は、次代を担う科学技術関係人材の育成を目指すスーパーサイエンスハイスクール(SSH)への支援を一層充実するとともに、その成果を広く他の学校に普及するための取組を進める。      国は、国際科学技術コンテストに参加する児童生徒を増やす取組や、このような児童生徒の才能を伸ばす取組を進めるとともに、「科学の甲子園」や「サイエンス・インカレ」の実施など、科学技術に対する関心を高める取組を強化する。      V. 2. (2) 科学技術コミュニケーション活動の推進 (7-1-3)      科学技術イノベーション政策を国民の理解と信頼と支持の下に進めていくには、研究開発活動や期待される成果、更には科学技術の現状と可能性、その潜在的リスク等について、国民と政府、研究機関、研究者との間で認識を共有することができるよう、双方向のコミュニケーション活動等をより一層積極的に推進していくことが重要である。このため、研究者による科学技術コミュニケーション活動、科学館や博物館における様々な科学技術に関連する活動等をこれまで以上に積極的に推進する。また、これにより、科学技術に関する知識を適切に捉え、柔軟に活用できるよう、国民の科学技術リテラシーの向上を図る。</p>
<p>科学技術イノベーション 総合戦略 2014 ～未来 創造に向けたイノベーシ ョンの懸け橋～</p>	<p>平成 26 年 6 月 24 日</p>	<p>第3章 科学技術イノベーションに適した環境創出      3. 重点的取組      (1) 「イノベーションの芽」を育む ～研究力・人材力強化に向けた取組の戦略的推進～      (略) 「地の創出」に向けて強い意欲を持った人材に対して、多様な「挑戦」の機会を提供することが必要となる。その際、若手・女性などの柔軟発想や経験を生かす「挑戦」の機会を確保することや、異なる分野や組織を超えた「相互作用」を促すことが特に重要である。      ①多様で柔軟な発想・経験を生かす機会の拡大      イノベーションの可能性を高めるには、多様な発想や経験を有する人材が主体性を持って活動し、柔軟な発想や経験を生かし、互いに切磋琢磨し合う機会を確保・拡大していくことが必要である。特に若手・女性、外国人といった多様な人材、異なる分野・専門性が出会うことは知的な触発を誘引し、新たな「知」の創造に大きく寄与する。      ノーベル賞受賞者の受賞業績と年齢の関係などのデータは、若手の柔軟な発想を生かすことの重要性を示唆している。また、我が国の研究者全体に占める女性の割合は増加傾向にあるが、主要国と比較するといまだに低い水準にとどまる上に、特に指導的地位に就いている女性研究者が少ないという現状にある。国際共著論文の国際比較は、知識生産のグローバル化が進展する中、世界の潮流から取り残されつつある我が国の現状を示している。政府は「知」の創出に向けて強い意欲・能力を持った人材に着目して「挑戦」の機会を提供する取組を、これまで以上に加速し、強力で進めていく必要がある。      &lt;関連する主な施策&gt;      ・公正・透明な評価制度に基づく若手研究者の安定的な雇用と流動性を確保する仕組みの拡大      ②研究力・人材力の強化に向けた大学・研究開発法人の機能の強化      &lt;関連する主な施策&gt;</p>

		・博士人材データベースの構築を通じた博士課程修了者のキャリアの継続的な把握と、若手研究者のキャリアパス等の改善への貢献
日本再興戦略 改訂 2014 —未来への挑戦—	平成 26 年 6 月 24 日	第二. 一. 2-2 女性の活躍推進/若者・高齢者等の活躍推進/外国人材の活用 i) 女性の活躍推進 ⑩キャリア教育の推進、女性研究者・女性技術者等の支援等 次世代の女性活躍に向け、ロールモデル提示、出前授業などキャリア教育プログラム情報集約・発信するとともに、女性登用等に積極的に取り組む大学に対する支援、女性研究者の研究と出産・育児等の両立のためのワークライフバランス配慮型研究システム改革、女性技術者等の育成や就労環境整備等を実行する。また、女性のキャリアアップの場としてのJICAボランティア事業の戦略的活用を行う。
経済財政運営と改革の基本方針 2014～デフレから好循環拡大～	平成 26 年 6 月 14 日	第2章 強い日本、強い経済、豊かで安全・安心な生活の実現 (7-1-2) 1. 「日本再興戦略」の基本方針 (1) 生産性の向上を生む科学技術イノベーションなどの基盤強化 (日本産業再興プラン) ③科学技術イノベーションの促進等 (略) 2020年代から2030年を視野に入れた「科学技術イノベーション総合戦略2014」を強力に推進し、革新的技術シーズを事業化に結びつける橋渡し機能強化、技術シーズ創出力の強化、人材育成・流動化、「特定国立研究開発法人(仮称)」制度の可能限り早期の創設等を戦略的に実施する。特に、「事業化の壁」の打破を重視して取り組む。また、世界最高の「知的財産立国」を目指し、人材育成を進めつつ、企業等におけるイノベーションを促す知的財産戦略や標準化戦略を推進する。
第2期教育振興基本計画 について(答申)	平成 25 年 4 月 25 日	14-2 理数系人材の養成 (7-1-1) スーパーサイエンスハイスクールの取組を充実させるとともに、科学の甲子園、国際科学技術コンテスト、サイエンス・インカレ等の参加者数を増加させる。これらを含め、理数系人材の養成に向けた取組を総合的に推進することにより、理数好きの生徒等を拡大するとともに、優れた素質を持つ生徒等を発掘し、その才能を伸ばし、科学技術人材を戦略的・体系的に育成・確保する。  15-1 独創的で優秀な研究者等の養成 (7-1-2) 専門分野の枠を超えた博士課程教育の構築・展開に向けた大学院教育の抜本的改革や産業界など社会と大学院との連携による人材育成等への支援を通じ、大学院修了者が各界各層で活躍する好循環を形成する。あわせて、フェローシップ等の学修研究に専念するための環境の整備や多様な人材を確保するためのテニュアトラック制(※)等の若手研究者が自立して研究できる環境の整備を行い、優れた研究者の育成、確保を図る。一方で、人材の流動化を図りつつ、博士人材の多様なキャリアパスを切り拓くための産学協働の取組を進める。また、研究の多様性を確保するとともに、男女共同参画社会の構築を促す観点からも、女性研究者の一層の活躍を促進するため、女性研究者が研究と出産・育児等を両立するための取組を推進する。 ※公正に選抜された若手研究者が、安定的な職を得る前に自立的研究環境で経験を積む仕組み。
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報		
-		

有識者会議での 指摘事項	○SACLA や Spring-8 といった大型施設を活用し、産業界につながることができる人材に関する指標の設定が必要ではないか。(家 泰弘委員)
-----------------	---

主管課（課長名）	科学技術・学術政策局 人材政策課 （柿田 恭良）
関係課（課長名）	初等中等教育局 教育課程課 （合田 哲雄） 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 （坂本 修一） 研究振興局 振興企画課 （松尾 浩道）

評価実施予定時期	平成27年度、平成30年度
----------	---------------